

講義コード	4R053011
講義名	医用工学実習
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎医学系
科目ナンバリング	R4-2302
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榎田 高士	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

榎田高士（臨床工学技士・臨床検査技師）

目的

本科目は理論的に難しい事柄を現象として感覚的に捉える実習であり、3年次で学んだ医用工学概論の基礎知識について実習を通して理解する。

到達目標

医用工学概論で学んだ知識を、実習（実験）を通して理解する。また、実習レポートの書き方について理解する。

授業計画表

授業計画

1. 実習の概要・使用機器の取り扱いについて
2. ブラウン管オシロスコープ、低周波発振器
3. 実験項目 1. 合成抵抗（オームの法則）
4. 実験項目 1. 合成抵抗（キルヒホッフの法則）
5. 実験項目 2. フィルター回路（低域遮断フィルター）
6. 実験項目 2. フィルター回路（高域遮断フィルター）
7. 実験項目 3. サーミスターの電気的特性 1
8. 実験項目 3. サーミスターの電気的特性 2
9. 実験項目 4. トランジスタ増幅回路
10. 実験項目 4. トランジスタ増幅回路.
11. 実験項目 5. ダイオード（ツエナーダイオード）
12. 実験項目 5. ダイオード（発光ダイオード）
13. 実験項目 6. ME機器の安全対策：漏れ電流の測定
14. 実験項目 6. ME機器の安全対策：患者漏れ電流の測定
15. まとめ

成績の評価

レポートで評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

実習講義の内容を予習し、実習ノートを作成して実習に臨むこと。

履修上の注意

テキスト

臨床検査学講座 医用工学概論 嶋津秀昭・若松秀俊、他著 医歯薬出版
その他のテキストとして実習マニュアルを配布する。

参考資料

MEの基礎知識と安全管理 日本生体医工学会ME技術教育委員会監修 南山堂
標準臨床検査学 臨床医学総論 小山高敏・戸塚 実 編集 医学書院

オフィスアワー

研究室・授業用E-mail

管理棟 2階 非常勤講師室 Email: umeda@kansai.ac.jp (榎田)

講義コード	4R055011
講義名	医療情報科学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	検査総合管理学
科目ナンバリング	R4-3502
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 竹村 匡正	指定なし

目的

臨床現場における臨床検査や医療とICTをはじめとする情報科学は密接に結びついている。また、臨床現場では情報技術を有効に利用することで、病院情報システムや検査部門システムを効率的に利用し、またデータ分析などを行うことが可能になる。よって本講義では臨床検査技師として必要な、医療と情報科学の関係について論じるとともに、臨床検査技師国家試験に対応するための医療情報科学の知識を習得することを目指す。

到達目標

病院や臨床において必要となる医療情報科学を習得するとともに、国家試験対策としてにおける情報科学分野の総復習を行う。

授業計画表

授業計画

1. 医療と情報科学1 概論
2. 医療と情報科学2 医療における情報技術
3. 医療と情報科学3 標準化などの動向
4. 病院と情報科学1 病院情報システム1
5. 病院と情報科学2 病院情報システム2
6. 病院と情報科学3 病院運営
7. 臨床検査と情報科学1 検査部門システム
8. 臨床検査と情報科学2 統計科学
9. 臨床検査と情報科学3 データ処理
10. 情報科学基礎のおさらい1
11. 情報科学基礎のおさらい2
12. 情報科学基礎のおさらい3
13. 情報科学基礎のおさらい4
14. 模擬テスト
15. 模擬テスト

成績の評価

講義中に行われるミニテストおよび演習（5回程度を予定）。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

授業時間内でミニテストおよび演習についての解説を実施する。

自己学習

国家試験を強く意識した講義内容になります。出題範囲は広く、講義内で全て対応できないかもしれませんが、資料を準備しますので復習を重視してください。授業¹コマにつき0.5コマ

(分) 相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

なし

テキスト

資料を配布します。

参考資料

「医療情報（医療情報システム編）（情報処理技術編）」
一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会編

講義コード	4R056011
講義名	医療情報処理演習
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	検査総合管理学
科目ナンバリング	R4-3503
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 竹村 匡正	指定なし

目的

医療情報科学の講義における臨床現場での情報利用の場面を想定し、これに必要な情報技術を習得する。病院で利用されているシステムを踏まえた上で、データ処理、統計解析、プログラミング等の基本を演習形式で取得する。

到達目標

データ処理、統計解析、プログラミング等の基本を習得するとともに、国家試験にて求められる医療情報科学分野の傾向を実感する。

授業計画表

授業計画

1. 医療情報システムのデータ処理1
2. 医療情報システムのデータ処理2
3. 医療情報システムのデータ処理3
4. 医療情報システムのデータ処理4
5. 医療情報システムのデータ処理5
6. 統計処理1
7. 統計処理2
8. 統計処理3
9. 統計処理4
10. 統計処理5
11. プログラミング基礎1
12. プログラミング基礎2
13. プログラミング基礎3
14. プログラミング基礎4
15. プログラミング基礎5

成績の評価

課題提出（4-5回）を基本とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

授業時間内で課題についての解説を実施する。

自己学習

PCなどの環境がある場合は復習することが望ましい。授業時間内でも反復学習を行う。授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

資料を配布します。

講義コード	4R086011
講義名	環境衛生学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	R4-3702
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 門脇 英子	指定なし

目的

社会生活や労働においては、環境に関わる健康問題が数多くある。本講義では、労働や環境変化による人体機能への影響、健康被害の防御およびその測定・評価方法に関して解説する。また、公害防止などについても幅広く講義を行う。自然環境及び作業環境における汚染因子の発生機序及びそれらの測定、評価、制御方法の基礎を理解した上で試料のサンプリング・測定・評価方法について学修する。また、近年話題になっている健康障害に関する個人の感受性要因等について学ぶ。

到達目標

環境問題の現状を理解し、環境の時代に生きる医療従事者の知恵を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 人間活動と環境とのかかわり
2. 生活環境と衛生
3. 地球規模の環境問題
4. 大気汚染、水質汚濁
5. 土壌汚染、地盤沈下
6. 感覚公害（騒音、振動、悪臭）
7. 廃棄物、放射能汚染
8. 環境化学物質①
9. 環境化学物質②
10. 汚染物質の生物濃縮
11. 化学物質と人の健康影響の因果関係を調査するための手法
12. 産業保健①
13. 産業保健②
14. 産業保健③
15. まとめ

成績の評価

授業への取り組み度30% レポート70%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。日ごろから新聞やテレビのニュースを通じて、身の回りの環境問題に関心を持つこと。

履修上の注意

第一種衛生管理者の資格取得に必要な科目です。

テキスト

毎回プリントを配布する。

参考資料

講義中に紹介する。

オフィスアワー

講義を行う曜日 12:15～12:45

講義コード	4R095011
講義名	関係法規
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医療検査系
科目ナンバリング	R4-3504
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍵弥 朋子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

鍵弥朋子

目的

医療業務に関連の深い法律を学ぶ。臨床検査技師等に関する法律について理解する。

到達目標

1. 「臨床検査技師等に関する法律」の目的や定義等を正しく表記できる。
2. 医療に関連した法令について、それぞれ説明できる。

授業計画表

授業計画

1. 法の概念
2. 医事法規①医療法
3. 医事法規②臨床検査技師法
4. 医事法規③死体解剖保存法
5. 医事法規④
6. 医薬品医療機器等に関する法規
7. 予防衛生法規
8. 保健衛生法規①
9. 保健衛生法規②
10. 環境衛生法規
11. 社会福祉関係法規
12. 社会保険関係法規
13. 労働関係法規
14. 医療安全
15. まとめ

成績の評価

定期試験100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

系統看護学講座専門基礎分野 看護関係法令（医学書院）

オフィスアワー

12 : 10～13 : 00

研究室・授業用E-mail

2号館2階専任教員室D

kagiya@kansai.ac.jp

講義コード	4R112011
講義名	救命救助法
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	R4-2115
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 若山 育郎	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

若山育郎（医師）、高岸美和（柔道整復師）

目的

Basic Life Support (BLS)の基礎知識と技術を修得する

到達目標

BLSを実践できる

授業計画表

授業計画

1. 急変患者を前にしたとき（若山）
2. 冠動脈疾患と不整脈（若山）
3. 脳卒中（若山）
4. けいれん性疾患（若山）
5. 感染症（若山）
6. 救急・救助の現況（高岸）
7. 呼吸器系疾患（気管支喘息、COPDなど）（若山）
8. 止血法、気道異物除去、搬送法（高岸）
9. 救急蘇生法：一次救命処置を行うまでの手順（高岸）
10. 実技：体位変換、観察、止血法、気道異物除去、搬送法（高岸）
11. 肝疾患・腎疾患（若山）
12. 実技：心肺蘇生法の手順（高岸）
13. 実技：AEDを用いた一連の一次救命処置（高岸）
14. 病院で上申すべき心電図（若山）
15. 総括（若山）

成績の評価

筆記試験により評価する

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと

履修上の注意

実技講習を欠席すると単位を認定できない。

テキスト

特に指定しない

参考資料

特に指定しない

オフィスアワー

火曜・水曜 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

1号館205研究室

wakayama@kansai.ac.jp

講義コード	4R149011
講義名	産業保健学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	労働衛生学
科目ナンバリング	R4-3701
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 森岡 郁晴	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

森岡郁晴（日本産業衛生学会指導医、日本労働衛生コンサルタント）

目的

産業保健は、産業現場で働く人々を対象として、労働に関わる健康問題を扱う。本科目においては、主に事業所における健康管理を中心的な課題とする。そこで、労働管理体制とともに、事業所における様々な有害因子を取り上げ、それぞれが誘発しうる障害とその予防策について解説する。さらに、健康管理、健康の保持増進対策についても整理する。産業保健の実務に関わろうとする者には、この科目の習得が不可欠である。

到達目標

第一種衛生管理者取得のための内容であるので、産業保健における実際の場面での対応、各有害因子の作用機序等を理解することを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 労働衛生管理（衛生管理体制・労働衛生教育）
2. 作業環境要素（温熱環境・採光照明・換気・有害生物）
3. 有害化学物質その1（粉じん・金属）
4. 有害化学物質その2（化学物質・有機溶剤・有害ガス）
5. 有害エネルギーその1（有害光線・電離放射線）
6. 有害エネルギーその2（騒音・振動・高気圧）
7. 作業環境測定とその改善
8. 局所排気装置・喫煙対策
9. 作業管理の手順
10. 産業疲労・作業姿勢・VDT作業
11. 労働衛生保護具
12. 一般健康診断と特殊健康診断
13. 健康保持増進対策
14. 心の健康保持増進対策（ストレス・過労・自殺）
15. まとめ

成績の評価

レポート30%、筆記テスト70%にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

質問があれば回答する形で行う

自己学習

人体の構造 I に加え、物理、化学の基礎知識を確認しておく。
授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は第一種衛生管理者を取得するために必要な科目である。働く人々の健康管理に興味と意欲をもつ者が履修してほしい。興味もないのに資格目的で受講することは望ましくない。実際的な対応能力を養うため、質問に対する積極的な発言・参加を期待する。
出席、遅刻等の取り扱いは履修規定に沿うものとする。

テキスト

「衛生管理 (上) 第一種用」 (中央労働災害防止協会)

参考資料

「労働衛生のしおり」 (中央労働災害防止協会)

講義コード	4R243022
講義名	総合演習 I
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医療検査系
科目ナンバリング	R4-4001
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤弘〔臨床検査技師〕

後藤きよみ〔臨床検査技師〕

目的

これまで学習した生理学、臨床生理学、血液検査学、臨床検査総論、関係法規、臨床検査医学を横断的に学修し、臨床検査技師としての実践能力の向上を図る。なお、本科目は「キャリア教育科目」に指定されています。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援します。

到達目標

臨床検査系専門科目の教科内容を相互に関連付けて理解することにより、さらに理解を深化させて、高度な知識を修得することを目的とする。

授業計画表

授業計画

1.血液検査学（総論）（近藤）／2.血液検査学（赤血球）（近藤）／3.血液検査学（白血球）（近藤）／4.血液検査学（血小板）（近藤）／5.血液検査学（凝固因子）（近藤）／6.血液検査学（線溶）（近藤）／7.血液検査学（疾患）（近藤）／8.血液検査学（まとめ）（近藤）／9.生理学（循環器）（後藤）／10.生理学（脳神経）（後藤）／11.生理学（呼吸器）（後藤）／12.生理学（まとめ）（後藤）／13.臨床生理学（心電図）（後藤）／14.臨床生理学（心音・脈波）（後藤）／15.臨床生理学（心エコー）（後藤）／16.臨床生理学（呼吸機能）（後藤）／17.臨床生理学（腹部エコー）（後藤）／18.臨床生理学（体表エコー）（後藤）／17.臨床生理学（腹部エコー）（後藤）／18.臨床生理学（体表エコー）（後藤）／19.臨床生理学（脳波・筋電図）（後藤）／20.臨床生理学（まとめ）（後藤）／21.臨床検査総論（採血）（近藤）／22.臨床検査総論（検体採取）（近藤）／23.臨床検査総論（検体保存）（近藤）／24.臨床検査総論（まとめ・キャリア支援）（近藤）／25.関係法規（業務範囲等）（近藤）／26.関係法規（関連法規）（近藤）／27.臨床検査医学（循環器疾患）（後藤）／28.臨床検査医学（消化器疾患）（後藤）／29.臨床検査医学（腎疾患）（後藤）／30.臨床検査医学（まとめ・キャリア支援）（後藤）

成績の評価

定期試験

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

不正解になった問題については、徹底的に復習すること。

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

資料を配布します。

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜昼休み

研究室・授業用E-mail

2号館2階

講義コード	4R244012
講義名	総合演習Ⅱ
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医療検査系
科目ナンバリング	R4-4002
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍵弥 朋子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

竹田知広・上北宏美・木寺英明・中島康仁・鍵弥朋子

目的

これまで履修した生化学、臨床化学、病理学、病理組織細胞学を横断的に学修し、臨床検査技師としての実践能力の向上を図る。

到達目標

臨床検査系専門科目の教科内容を相互に関連付けて理解することにより、さらに理解を深化させることにより、高度な知識を習得することを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 生化学（糖質）（竹田）
2. 生化学（蛋白質）（竹田）
3. 生化学（脂質）（竹田）
4. 生化学（糖代謝）（上北）
5. 生化学（脂質代謝）（上北）
6. 生化学（ホルモン）（上北）
7. 生化学（酵素）（上北）
8. 生化学（まとめ）（上北）
9. 臨床化学（糖測定）（中島）
10. 臨床化学（AST・ALT・LDH）（中島）
11. 臨床化学（その他の酵素）（中島）
12. 臨床化学（ビリルビン）（中島）
13. 臨床化学（TP・ALB）（中島）
14. 臨床化学（電解質）（中島）
15. 臨床化学（Cre・BUN）（中島）
16. 臨床化学（TG・HDL・LDL）（中島）
17. 臨床化学（蛋白分画）（中島）
18. 臨床化学（まとめ）（中島）
19. 病理学（総論）（鍵弥）
20. 病理学（組織細胞傷害）（鍵弥）
21. 病理学（物質代謝異常）（鍵弥）
22. 病理学（循環障害）（鍵弥）
23. 病理学（炎症）（鍵弥）
24. 病理学（まとめ）（鍵弥）
25. 病理組織細胞診学（固定・包埋・薄切）（木寺）

26. 病理組織細胞診学 (H-E染色) (木寺)
27. 病理組織細胞診学 (特殊染色) (木寺)
28. 病理組織細胞診学 (免疫染色) (木寺)
29. 病理組織細胞診学 (細胞診学) (木寺)
30. 病理組織細胞診学 (まとめ) (木寺)

成績の評価

定期試験100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。

オフィスアワー

12:10~13:10 (鍵弥)

研究室・授業用E-mail

2号館2階専任教員室D・kagiya@kansai.ac.jp (鍵弥)、uekita@kansai.ac.jp (上北)

管理棟2階207研究室・t-takeda@kansai.ac.jp (竹田)

講義コード	4R245011
講義名	総合演習Ⅲ
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医療検査系
科目ナンバリング	R4-4003
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 竹田 知広	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

大瀧 博文〔臨床検査技師〕
上北 宏美〔臨床検査技師〕

目的

これまで履修した生理学、臨床生理学、血液検査学、臨床検査総論、関係法規、臨床検査医学を横断的に学修し、臨床検査技師としての実践能力の向上を図る。

到達目標

臨床検査系専門科目の教科内容を相互に関連付けて理解することにより、さらに理解を深化させることにより、高度な知識を習得することを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 臨床微生物学（総論）（大瀧）
2. 臨床微生物学（GPC）（大瀧）
3. 臨床微生物学（GNC）（大瀧）
4. 臨床微生物学（GPR）（大瀧）
5. 臨床微生物学（GNR）（大瀧）
6. 臨床微生物学（DNAウイルス）（大瀧）
7. 臨床微生物学（RNAウイルス）（大瀧）
8. 臨床微生物学（原虫）（大瀧）
9. 臨床微生物学（まとめ）（大瀧）
10. 医用工学（医用機器総論）（上北）
11. 医用工学（安全管理）（上北）
12. 医用工学（通信情報処理）（上北）
13. 医用工学（まとめ）（上北）
14. 公衆衛生学（衛生統計）（上北）
15. 公衆衛生学（公害）（上北）
16. 公衆衛生学（成人保健）（上北）
17. 公衆衛生学（母子保健）（上北）
18. 臨床免疫学（総論）（竹田）
19. 臨床免疫学（細胞性免疫）（竹田）
20. 臨床免疫学（液性免疫）（竹田）
21. 臨床免疫学（補体）（竹田）
22. 臨床免疫学（感染症）（竹田）
23. 臨床免疫学（自己免疫）（竹田）
24. 臨床免疫学（免疫電気泳動）（竹田）

25. 臨床免疫学 (輸血) (竹田)
26. 臨床免疫学 (まとめ) (竹田)
27. 一般検査学 (総論) (竹田)
28. 一般検査学 (尿検査) (竹田)
29. 一般検査学 (体腔液) (竹田)
30. 一般検査学 (まとめ) (竹田)

成績の評価

筆記試験100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。

参考資料

「臨床検査技師国家試験問題注解」金原出版

オフィスアワー

月曜日 13:00~15:00

研究室・授業用E-mail

1号館207研究室
t-takeda@kansai.ac.jp

講義コード	4R248011
講義名	卒業研究／エキスパート検査学
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	R4-4201
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 竹田 知広	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤 弘〔臨床検査技師〕
 上田 一仁〔臨床検査技師〕
 矢野 恵子〔臨床検査技師〕
 大西 基代〔臨床検査技師〕
 竹田 知広〔臨床検査技師〕
 後藤 きよみ〔臨床検査技師〕
 大瀧 博文〔臨床検査技師〕
 上北 宏美〔臨床検査技師〕

目的

臨床検査学は、診断、治療には欠くことのできない重要な専門分野である。その臨床的価値は、確かな精度の上ではじめて保証される。卒業研究/エキスパート検査学は、これまで履修した知識、技術をより確かなものとし、科学的手法を駆使できる臨床検査技師の育成を目的とする。

到達目標

科学的知見に裏付けられた臨床検査の知識・技術を身につけ医療に貢献できること。

授業計画表

授業計画

実習前説明会を実施し、希望調査を行い、調整後に配属研究室（担当教員）を決定する。受講生は、配属研究室のテーマに沿って学習する。開講科目は以下のとおりである。

微生物検査学、血液検査学、輸血学、遺伝子検査学、臨床化学検査学、免疫検査学、一般検査学、生理機能検査学

成績の評価

レポート50%、成果発表50%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

・成績発表後、レポートを開示する。

自己学習

自ら問題解決に向けて文献調査を行うこと。

テキスト

特に指定しない。

参考資料

各教員の指示に従う。

オフィスアワー

月曜日 13:00~14:00

研究室・授業用E-mail

1号館207研究室

t-takeda@kansai.ac.jp(竹田知広)

講義コード	4R363011
講義名	臨床病態学Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医療検査系
科目ナンバリング	R4-3004
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 竹田 知広	指定なし
教員	大瀧 博文	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

竹田 知広（臨床検査技師）

大瀧 博文（臨床検査技師）

目的

各々の疾患における病態を臨床検査の見地からアプローチし、病態と臨床検査を繋げた総合的な理解を深める。

到達目標

各々の疾患における病態と臨床検査の意義および役割を総合的に理解できていること。

授業計画表

授業計画

1. 生理検査（循環器）から見た病態へのアプローチ（竹田）
2. 生理検査（呼吸器、脳神経）から見た病態へのアプローチ（竹田）
3. 画像検査から見た病態へのアプローチ（竹田）
4. 臨床化学検査から見た病態へのアプローチ（竹田）
5. 一般検査から見た病態へのアプローチ（竹田）
6. 病理検査から見た病態へのアプローチ（大瀧）
7. 血液検査から見た病態へのアプローチ（大瀧）
8. 微生物検査から見た病態へのアプローチ（大瀧）
9. 免疫検査から見た病態へのアプローチ（大瀧）
10. 輸血検査から見た病態へのアプローチ（大瀧）
11. 公衆衛生に関わる疾患と病態（大瀧）
12. 医用工学・情報技術を活用した病態の理解（大瀧）
13. 症例検討（循環器、その他）（大瀧）
14. 症例検討（消化器、その他）（大瀧）
15. 症例検討（血液、その他）（大瀧）

成績の評価

定期試験で評価する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

適宜配布する。

参考資料

各講義で使用したテキスト（授業毎に指示する）

オフィスアワー

月曜日 13:00~15:00

研究室・授業用E-mail

1号館207研究室 t-takeda@kansaiac.jp

講義コード	4R366011
講義名	労働衛生法規Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	R4-3703
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 谷口 恒夫	指定なし

目的

本講義は、第1種衛生管理者の資格を取得するために設定されたものである。

衛生管理者は、産業の各現場において、労働者の生命・身体を守り、健康を保持・増進するとともに、快適な職場環境の形成に関して実質的に主たる役割を担う者であり、その為には労働安全衛生法及び付随法令、関連法規等について十分な理解が必要不可欠となる。従って、受講者が単なる教養的知識の習得に留まらず、それぞれの産業現場において、労働衛生管理を適切に実施しうるために必要な知識や実効的な技術的管理手法を確実に習得することが目的である。

到達目標

上記役割を担う衛生管理者として、職場における労働衛生管理の基本となる作業環境管理、作業管理、健康管理の3管理について確実に理解するとともに、これらの管理を十全に行うための管理体制の構築並びに労働衛生教育の実施により、労働者の健康障害防止措置の実施、健康診断及び健康の保持・増進措置の実施、職業性疾患等の原因の調査及び再発防止対策の策定・実施、リスクアセスメントと事後措置の実施、過重労働対策やメンタルヘルス対策の実施、労働安全衛生マネジメントシステムの構築と運用等に関し、これらの技術的事項を担当するものとしての強固な意識づけを行うとともに、これを実践するために必要となる十分な知識及び管理・推進手法を習得することが目標である。

授業計画表

授業計画

1. 労働安全衛生法、同施行令、関係省令等 1
2. 労働安全衛生法、同施行令、関係省令等 2
3. 労働安全衛生法、同施行令、関係省令等 3
4. 労働安全衛生法、同施行令、関係省令等 4
5. 労働安全衛生法、同施行令、関係省令等 5
6. 労働安全衛生規則（一般的衛生基準）
7. 有機溶剤中毒予防規則
8. 鉛中毒予防規則、四アルキル鉛中毒予防規則
9. 特定化学物質障害予防規則
10. 電離放射線障害防止規則（含：除染則）
11. 酸素欠乏症等防止規則
12. 粉じん障害防止規則、
13. 石綿障害予防規則、高気圧作業安全衛生規則
14. 事務所衛生基準規則
15. 労働衛生管理の総括と今後の方向性

成績の評価

定期試験（40%）、中間試験（60%）を実施し、評価を行う。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は第1種衛生管理者の資格取得に必要な科目である。

テキスト

1. 「衛生管理」（下）第1種用
中央労働災害防止協会編・発行
2. 「労働衛生のしおり」
中央労働災害防止協会編・発行

講義コード	4R367011
講義名	労働衛生法規Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	R4-3704
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 谷口 恒夫	指定なし

目的

戦後まもなく制定された労働基準法は、労働条件の最低基準を罰則付きで規定した個別労働関係における基本法であるが、労働経済情勢の変化に伴って順次改正されてきた。

労働安全衛生法は、昭和47年に労働基準法から分離独立して制定された法律で、安全衛生に関する重要な基準や対策等を定めているものであるが、母法である労働基準法の理念を継承し、安全衛生を確保・推進するうえで両者は密接に関連していることから、労働基準法及び付属法令等についても十分に理解することが不可欠となる。

本講義は、労働基準法及び付属法令の意義、目的、内容、最近の動向、新たな課題等を取り上げるとともに、重要な関係法令についても講義することにより、保健医療学部学生諸君には、労働安全衛生法との関わりをより一層深く理解し、第1種衛生管理者の免許取得に十分対応しうる実践的知識と将来、衛生管理者として産業現場における労働衛生管理を担当するための心構えとともに実効的な技術的管理手法を習得して貰うことを目的としている。

到達目標

労働契約、賃金、労働時間、休憩、休日、休暇、年少者・妊産婦関係、災害補償、就業規則並びに派遣、均等、休業、じん肺、作業環境測定などの関連法令等労働を通じた社会生活の重要なルールを学び、労働衛生管理との関わりを理解することが目標である。

授業計画表

授業計画

1. 労働基準法 1
2. 労働基準法 2
3. 労働基準法 3
4. 労働基準法 4
5. 労働基準法関係規則
6. 労働者災害補償保険法
7. 労働契約法
8. 労働者派遣法
9. 男女雇用機会均等法
10. 育児・介護休業法
11. じん肺法、作業環境測定法
12. 労働衛生関係指針等 1
13. 労働衛生関係指針等 2
14. 労働衛生関係指針等 3
15. 総括と今後の方向性

成績の評価

定期試験（40%）、中間試験（60%）を実施し、評価を行う。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は第1種衛生管理者の資格取得に必要な科目である。

テキスト

1. 「衛生管理」（下）第1種用
中央労働災害防止協会編・発行
2. 「労働衛生のしおり」
中央労働災害防止協会編・発行

講義コード	4R714011
講義名	医療安全管理学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	
対象学科・学年	臨床検査学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大瀧 博文	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

大瀧博文[臨床検査技師]

目的

医療安全に関する事項（患者対応，リスクマネジメント，感染対策）および検体採取法について学ぶ。

到達目標

医療安全に関する事項および検体採取法について理解・修得をする。

授業計画表

授業計画

1. 患者と臨床検査技師の関わり
2. チーム医療への技師の関わり
3. リスクマネジメント
4. 感染対策
5. 検体採取（採血）
6. 検体採取（鼻腔，咽頭・喉頭）
7. 検体採取（皮膚，口腔，肛門）
8. まとめ

成績の評価

定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験の解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「最新臨床検査学講座 医療安全管理学」（医歯薬出版）

オフィスアワー

月曜日 12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

管理棟 207研究室 ohtaki@kansai.ac.jp